



杉村 幸敏 議員

男女共同参画の 社会づくりについて

問 家庭地域等での男女共同参画について町長としての見解を伺う。

答 (町長) 家庭、職場、地域に於いて、男女対等な立場で、役割や責任を共有しながら参画する事は、これからの町づくり地域づくりにおいて大変重要なことである。現在、男女共同参画基本法第14条に於いて男女共同参画の策定に取り組んでいる。

答 (総務課長) 和水町・男女共同参画計画を作っており町に於ける審議会、委員会等の施策の決定に携わる機関への女性委員の登用の推進に取り組んでいく。

問 町としての男女共同参画を宣言したと思うが町長としての見解を伺う。

答 (町長) 現在、宣言している、市町村は熊本県内45市町村中9市町村だ。和水町の場合、男女共同参画の取り組みはスタートに立ったばかりで宣言については、今後の計画実

行の推移等を見ながら検討したい。

肥後元氣村の運営 及び現状について

問 肥後元氣村の現状で1億円近い赤字が、想定されるが株主としての考えを伺う。

答 (町長) ご指摘の通り、負債額の増大には大変憂慮致しており、肥後元氣村の事業に關しては、町内の雇用の場の確保、そして観光施設、農産物の販売と云った役割も果たしている。全員協議会に於いて今日迄の経営分析をして、今後の対応運営を考えていかなければならないと思っている。

問 肥後元氣村の再建築の考えについて伺う。

答 (町長) 新たな年度からしっかりとした足腰の強い体制の中で運営していく。

問 公金を投入する考えはないか伺う。

答 (町長) 公金を投入しなければならぬと思う。全員協議会で説明する。

平成23年度予算案の重点 項目の考え方について

問 財政状況、行政改革について伺う併せて合併後の職員数の推移及び機構改革の考えは。

答 (町長) 財政状況については合併から今日迄、合併によ

る地方交付税の合併算定外や地域活性化交付金、人件費削減、行政機能の効率化により安定した財政になっている。又少子高齢化社会、過疎法及び合併特例法の適用期限、公共施設の改修等の財政支出要因を見据え、継続し、安定した住民サービスを提供する為に合併後、4年間で基金の積み増し、地方債減額に取り組んでいる。町の主要施策である学校統廃合事業については、平成27年度の開校に向けて進めている。総事業費45億3,000万その内、町負担額19億4,000万円と試算している。

この負担につきましては基金の積立で充分対応出来る。行政改革については、人件費の削減、公有財産等の売却等で7億3,000万円となっている。

答 (総務課長) 職員数は17年4月1日297名で、22年4月1日現在260名で、37名の減となっている。

問 高齢化率35%となっているが、その対策、予算計上について伺う。併せて少子化、障害者対策について伺う。

答 (町長) 23年10月15日、18日迄、ねりんピックが開催される。和水町では、ペタンク大会が開催される。予算656万円その他、老人クラブに454万円計上している。少子化対策としては、0歳児

から高校生迄の医療費の無料化予算4,034万円、出生手当お祝い金390万円、子育て支援2,896万円、新築住宅の税減免477万円、新婚さん定住奨励金360万円計上している。

問 TPP関連、農業機械購入補助、耕作放棄地対策、ふれあいの森開発計画について伺う。

答 (町長) 和水町ふれあいの森検討委員会を設置し、具申を頂いている。民間活用を導入により温泉等の地域活性化を図っていく。町による整備は極力抑えながら民間活力の導入により地域経済の活性化を目指したいと思う。TPP問題は、まだ不確実な中、国家的課題ですので、現在予算は計上していない。

答 (経済課長) 耕作放棄地対策としては20年度から取組んでいるが、中山間地域直接支払交付金事業が12年度からスタートしている。第3期対策として6,000万円、農地流動化補助金として1,223万円、農地水環境保全対策費として309万円計上している。農業法人数7件で、県の経営診断等の勉強会があるのでそう云ったところを紹介しながら支援していく。

答 (建設課長) 22年度の町道は1級路線12路線、2級路線

22路線、その他の路線299路線、合計333路線がある。23年度の主な路線としては、用水・米渡尾線の工事を継続して25年度完成を目標に事業を実施する。町単独事業としては、継続の改良事業6路線新規の改良工事5路線を実施する。下水道関係については23年度事業として大江田地区の延長240mの管渠整備を計画している。道路の管理については、道路点検、道路パトロールで定期的に行っていく。

学校教育について

問 学校建設のスケジュールについて伺う。玉名高校中高一貫教育の現状について、部活動の現状と今後の問題点について伺う。

答 (教育長) 学校建設については、用地買収を行い、本年度中に造成工事を行い、26年度末に完了し27年4月の開校を目指す。玉名中学校の入学試験は、1月9日に実施され、定員80名に296名の応募があり、3.7倍の競争率だったと聞いている。学校での部活の状況ですが、児童、生徒の減少による課題として、そのクラブの人数の確保、指導者の確保等が心配でもあるが現在の時点では廃部になったという状況はない。